

内容の整理

- 次の文章の空欄に、本文・脚注を参考にしながら適当な言葉を入れよ。
- 野分の吹き荒れた後の庭の様子「初め〓八二・二」
- 野分の〔①〕      「は、たいそう趣がある。垣根や植え込みは乱れ、風に折られた木の枝が、〔②〕      「や〔③〕      「の花にかぶさっている。〔④〕      「の枠組み一つ一つにこまごまと〔⑤〕      「が吹き込んでいる。
- 庭の様子を眺める人の姿「八二・三」終わり」
- 実直そうできれいな人が、夜は〔⑥〕      「の音で寝つけず、遅くに寝て〔⑦〕      「の姿で、〔⑧〕      「から少し出て庭を眺めている様子は、とてもすばらしい。十七、八くらしいの女性が、子どもや〔⑨〕      「が風に吹き折られた木をかたづけたりするのを、〔      「に簾を押し出して眺めている様子も、趣のあることだ。

基本

- 1 次の漢字の本文中での読みを平仮名（現代仮名遣い）で書け。

|        |          |        |          |
|--------|----------|--------|----------|
| (1) 野分 | 〔      〕 | (2) 立薮 | 〔      〕 |
| (3) 透垣 | 〔      〕 | (4) 前栽 | 〔      〕 |
| (5) 単衣 | 〔      〕 | (6) 宿直 | 〔      〕 |

- 2 次の傍線部の「の」「が」の文法的説明として適当なものを、それぞれ後から選べ。

|                                          |          |
|------------------------------------------|----------|
| (1) 枝など吹き折られたるが〔八一・四〕                    | 〔      〕 |
| (2) 荒かりつる風のしわざとはおぼえね。〔八二・一〕              | 〔      〕 |
| (3) いと濃き衣のうはぐもりたるに〔八二・三〕                 | 〔      〕 |
| (4) 黄朽葉の織物、薄物などの小桂着て〔八二・四〕               | 〔      〕 |
| (5) まことしう清げなる人の〔八二・五〕                    | 〔      〕 |
| (6) 少しうちふくだみたるが〔八二・九〕                    | 〔      〕 |
| (7) わざと大人とは見えぬが〔八二・一四〕                   | 〔      〕 |
| (8) 生絹の単衣のいみじうほころび絶え、花もかへり、濡れなどしたる〔八三・一〕 | 〔      〕 |
| (9) 童べ、若き人々の〔八三・四〕                       | 〔      〕 |

ア 主格の格助詞      イ 連体修飾格の格助詞

ウ 同格の格助詞      エ 接続助詞

読解

- 1 「いと心苦しげなり」〔八一・三〕とは、何のどのような様子をいったものか、答えよ。

〔      〕

2 「風のしわざ」「八二・1」とはどのようなことを指しているか。本文中から三十六字で抜き出し、初めと終わりの五字を示せ。

3 作者が「まことにめでたし。」「八二・10」と見ている人物は、その外見がどのように描写されているか。箇条書きでまとめよ。

4 「心あらむと見ゆる」「八二・12」について、

(1) 現代語訳として適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア 特別な意味があると思われる

イ 道理をわきまえた人だと思われる

ウ 情趣を解する人だと思われる

エ 思慮分別のある様子だと思われる

(2) なぜそう思われるのか。理由を簡潔に答えよ。

5 「袴のそばそばより見ゆる」「八三・4」とあるが、何が見えているのか。簡潔に答えよ。

6 「起こし立てなどする」「八三・5」とあるが、誰が何を「起こし立て」するのか、答えよ。

7 「うらやましげに押し張りて、簾に添ひたる」「八三・5」について、

(1) この動作主は誰か。本文中から三十一字で抜き出し、初めと終わりの五字を示せ。

(2) この動作にはどのような気持ちが表れているか、答えよ。

8 本文中から主題となる一文を抜き出せ。

9 本文の描かれ方について、適当でないものを次の中から一つ選べ。

ア 野分を取り上げながらも、野分そのものでなく野分の後の様子を感覚的に描いている。

イ 野分の激しさはなく、女房の優雅な世界と重なり合った、静かな情趣が巧みに描かれている。

ウ 作者の観察は繊細で鋭く、第三者的な視線であり、その着眼点にも独自性が見られる。

エ 野分の後の荒涼たるさまを、理知的・論理的に捉え、独特な思想を導き出している。